

## 背景

近年、「文化的処方」が医療や福祉の現場や自治体でも注目されている。

「薬」を処方するように「文化」を処方することによって、一人ひとりが「望まない孤独や社会的孤立」を乗り越え、または「予防」することで、住民が幸福に暮らす力を育むことを目的としている。

アートで地域と人をつなぐ新しいアプローチとして東区で試行的に取り組む。

## 内容

東区の認知症サポーター（認とも）が実施している「傾聴ボランティア」の活動等に文化的処方を取り入れる。

参加アーティストは、東京藝大 古川実季氏（熊本県立第二高校美術科出身）

昨年度末に健軍商店街の空き店舗を使用させていただき実施したところ、参加者から「楽しかった」との声があったため、今年度も引き続き健軍商店街の店舗を借用し実施予定。

今後、まずはスモールスタートとして実施し、ターゲットは高齢者（福祉課）や子育てサークル（保健こども課）とする。

## ねらい

- ✓ 地域拠点の中心となる健軍商店街の活性化
- ✓ 若い世代が活動に参加しやすい仕組みづくり
- ✓ ボランティア団体の活動の場の提供
- ✓ 2025年問題の対策として孤独、孤立化の予防
- ✓ こどもの居場所づくり
- ✓ 芸術家や芸術家をめざす人の活動の場の提供
- ✓ 熊本在住アーティストの活動の場



人とのつながりや記憶など、確かにそこにあるが目には見えていない糸のようなものを、ワークショップを通して確かめたり、手繰り寄せたりしていく



写真:古川実季氏提供